



## CONTENTS

P2~3

## 新春メッセージ

大学コンソーシアム京都の  
新しい展開に向けて

第3回

P4~5

「頑張っています!  
京都の大学・短期大学」

2007年度に生まれ変わる  
大学・短期大学

P6~10

## アピール

大学コンソーシアム京都

- 京都学術共同研究機構「季刊アカデミア」
- 芸術系大学作品展2006  
-ART UNIV. 2006-
- インターンシップ・プログラムのご紹介

P11

## TOPICS

P12

## INFORMATION



CAMPUS SHOT

華頂短期大学 図書館

# 大学コンソーシアム京都の

大学を取り巻く状況は刻々と変化し、様々なニーズに応えるための改革が強く望まれています。大学コンソーシアム京都は、さらなる産官学地域社会との連携を目指し、学術文化を花開かせるための取り組みを一層進めてまいります。



文部科学大臣  
衆議院議員  
伊吹 文明

## ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。大学コンソーシアム京都の皆様にとって、本年が良い年であることをお祈りいたします。

昨年9月、安倍内閣が発足し、文部科学大臣をお引き受けして以来、安倍総理が最優先の政策課題とする教育改革を担当しており、就任早々より多忙な毎日を送っています。

先の国会での教育基本法の成立により、日本はやっと教育再生のスタート台に立てたということでしょう。基本法は、大学教育、研究体制も含めた教育の憲法なので、この法律の改正により教育現場がすぐに良くなるというものではありません。この法律を受けて、関連諸法を改正し、教育関係者の意識改革を進め、予算で肉付けをしていくということになります。教育問題は国家百計の計であるだけに、その結果は多分私達がこの世を去った後に出てくるでしょう。そのことを肝に銘じ、今年も精一杯、国家・国民のため努力したいと思います。

私は政治家として、日本社会に受け継がれてきた良き習慣、伝統により、競争社会・市場経済の弊害を抑え、自助の気概と創意工夫が生かされる、活力ある「日本の国のかたち」を目指してまいりました。

日本は、例外はありますが、一民族・一国家・一文化圏という特異な文化をもった国です。社会規範、即ち法律による縛り以上に、社会の秩序維持に大切なものが出来やすい国だったということです。この伝統・文化こそが日本的保守主義の根幹をなすものです。日本社会と経済を立て直すための小泉改革はやむをえなかったことですが、自由競争重視故の副作用を内包していました。即ち伝統的な社会規範を中心とした人間力回復の教育改革なしには、大学教育も研究も、市場経済におもねる、リベラルアーツの厚みを失った、単なる技術者養成に陥る危険を孕んでいるのです。

大学コンソーシアム京都には、平成10年3月に財団法人として設立されて以来、伝統と文化のまち京都で、大学、地域社会及び産業界との協力による大学教育改善のための調査研究、情報発信交流、社会人教育に関する事業を行うとともに、大学相互の結びつきを深め、教育研究のさらなる向上とその成果の地域社会、産業界への還元を図ってこられました。「知」の拠点としての大学が果たす役割は益々重要となっており、貴法人の大学等のコンソーシアム取組は大変有意義だと思います。今年も、このような活動を通じて、さらに我が国の学術研究と高等教育の発展に寄与されることを期待致します。

結びに、大学コンソーシアム京都の今年のご発展と皆さまのご健勝をお祈りします。



京都市長  
木下 頼兼

## 「大学のまち京都」の更なる飛躍に寄せて

初春とはいえ厳しい寒さが続いておりますが、皆様には、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

財団法人大学コンソーシアム京都におかれましては、今や全国に広がりを見せる大学連携組織のパイオニアとして、京都ならではの大学の集積を活かし、その規模及び質において比肩するものない優れた事業を推進してこられました。貴財団の基幹事業である単位互換事業とインターンシップ事業が、相次いで文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されていることも、我が国の教育界から寄せられる評価の高さを物語るものと存じます。

また、大学の知の集積を市民の生涯学習の分野に活用した「シティーカレッジ事業」も、貴財団に運営をお願いしてから10年目の節目を迎えますが、来年度からは「京(みやこ)カレッジ」として、内容を更に充実し、名称も新たに生まれ変わるとのことであり、一層多くの市民の皆様にご参加いただける講座となるよう大いに期待致しております。

これまでの輝かしい御実績に加え、更なる向上を目指してたゆまぬ研鑽を積まれておられます、八田英二理事長をはじめとされる貴財団関係者の皆様の御努力に、心より敬意を表する次第です。

さらに、平成12年に本市が建設致しましたキャンパスプラザ京都につきましても、今年度から指定管理者として管理運営いただいております、貴財団の御活躍と相まって、キャンパスプラザ京都が学びを求める学生や市民の皆様にも更に広く親しまれますことを願ってやみません。

私は昨秋、「第4回京都学生祭典」に参加し、学生のエネルギーと創造力、そしてそれを一体となって応援する京都のまちの姿に、改めて深い感動を覚えました。京都市と致しましても、引き続き、「京都で学んで良かった」と心から実感していただけるまちづくりに全力を挙げて取り組んで参る所存です。そのためには、貴財団はもとより、大学関係者の皆様、産業界の皆様、そして市民の皆様との連携強化が必要不可欠です。今後とも、「大学のまち京都」の更なる飛躍に向けて、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴財団のますますの御発展を心から祈念致しまして、私の御挨拶とさせていただきます。

# 新しい展開に向けて



財団法人  
大学コンソーシアム京都  
理事長  
八田 英二

## 大学の個性化に対応した「新しい連携」の創造に向けて

明けましておめでとうございます。新春を迎え、皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

2007年度は、いよいよ国内の大学の総入学定員と総入学希望者数が同じになる「全入時代」に本格突入します。他方、世界的研究・教育拠点、高度専門職業人養成、幅広い職業人養成、総合的教養教育、地域の生涯学習機会の拠点、社会貢献機能の強化など、大学の教学理念や地域性を勘案した個性あふれる特色ある大学づくりにいっそう拍車がかかることでしょう。

このような中で、大学コンソーシアム京都は、①現代社会と新しい学問的パラダイムの構築、②大学連合体京都における新しい人づくり・まちづくりへの貢献、③大学間交流による新しい教育システム・学問・芸術の創造、④大学の社会開放と生涯学習システムの開発の4つを基本理念とし、規模を活かした事業、先駆的の事業、相互補完事業を展開してきました。2007年度には、京都・大学センター時代を含め設立14年目を迎えます。

これまでの京都の大学・短期大学の定員充足率は、他地域に比べ比較的優位性を維持していますが、上述したように、大学間の競争と協力、そして大学個性化の時代到来に対応した「新しい大学間連携」について創造していく必要があります。

2007年度はこのような状況を踏まえ、「第2ステージプラン(2004年度～2008年度)」の中間総括(既存事業の積極的な選択と集中)をはかるとともに、大学を取り巻く急激な環境変化を踏まえた2009年度以降の基本構想(第3次ステージプラン)の策定準備に取り組んでまいります。

また、これまで取り組んできた各種事業をますます発展させるとともに、とくに、以下の具体的課題に対する取り組みを強化してまいります。

- ① 単位互換における事務システムの整備
- ② 短期大学生および短期大学の積極的な事業参加に向けた環境整備
- ③ 修学旅行生誘致プログラムの策定及び試行実施
- ④ 京都型コミュニティカレッジ「京(みやこ)カレッジ」の開設
- ⑤ 共同研究事業の充実—京都学術共同研究機構の特色化と運営推進体制の整備
- ⑥ 高等教育研究事業の高度化
- ⑦ 第2ステージプランの総括と第3ステージプラン策定に向けた調査・企画
- ⑧ 地域に根ざした新たな学生交流事業の確立
- ⑨ ホームページのリニューアル等による広報機能の充実化
- ⑩ キャンパスプラザ京都の発展的活用策の検討・実施準備(情報交流プラザ、5階共同研究室)

今後も大学コンソーシアム京都は、連携することによって生まれた成果を各大学に還元するという基本理念を軸にしなが、高等教育情勢を見据えたチャレンジを推し進め、我が国の学術研究と高等教育の創造に寄与してまいりたいと考えております。

引き続き大学コンソーシアム京都の理念に共感いただくとともに、力強いご支援をお願い申し上げます。

NEWS!

## 大学コンソーシアム京都が 京都市教育功労者賞を受賞しました!

2006年11月10日、大学コンソーシアム京都は、京都市教育功労者賞を受賞しました。大学のまち・京都の発展に向けて、京都高大連携協議会を設立し、進学を希望する高校生を対象に大学・短期大学情報を広く発信するとともに、高校・大学教育の接続の促進を図る「高大連携教育フォーラム」を開催するなど、京都市の高等学校教育の充実発展に貢献したことが評価されました。



# 「頑張っています! 京都の大学・短期大学」

第3回

新たな改革へのチャレンジ!

大学コンソーシアム京都の加盟大学・短期大学を追究コーナー。第3回目は、2007年に京都地域において設置される新大学・新学部をピックアップしてご紹介します。

## 2007年度に生まれ変わる大学・短期大学



立命館大学

映像学部を新設!



映像学部新棟イメージ図(2007年9月完成予定)

2007年4月、立命館大学は、京都・衣笠キャンパスに映像学部を新設します。映画やゲーム産業を生んだ「京都」の活力を遺伝子として受け継ぎ、次世代の映像文化を創造する拠点を目指します。100年の歴史と9つの学部を持つ総合大学のメリットを活かし、アートとテクノロジー、そしてビジネスで構成された文理融合型カリキュラム。映画やCMのプロデューサーからゲームのクリエイター、CGアニメーションやバーチャルリアリティのスペシャリストまで、豊かな教養とデジタル時代を担う総合的なプロデュース能力を備えた人材を育成します。

### 映像プロデュースの最前線を体験 インターンシップの充実

映画やゲーム制作の現場を経験し、そのプロセス、組織マネジメントやリーダーシップ、そしてプロデュースについて実践的に学ぶためのインターンシップを推進します。松竹(株)、松竹京都映画(株)や(株)如月社(京都シネマ)と協定し、制作から映画の配給・上映の現場までの一連の流れを体験できるなど、現在、さまざまな企業との連携を進めています。また、最前線で活躍する映画監督やプロデューサー等による連続ゲスト講義「クリエイティブ・リーダーシップ・セミナー」を開講し、映像の未来を担う人材育成を目指します。



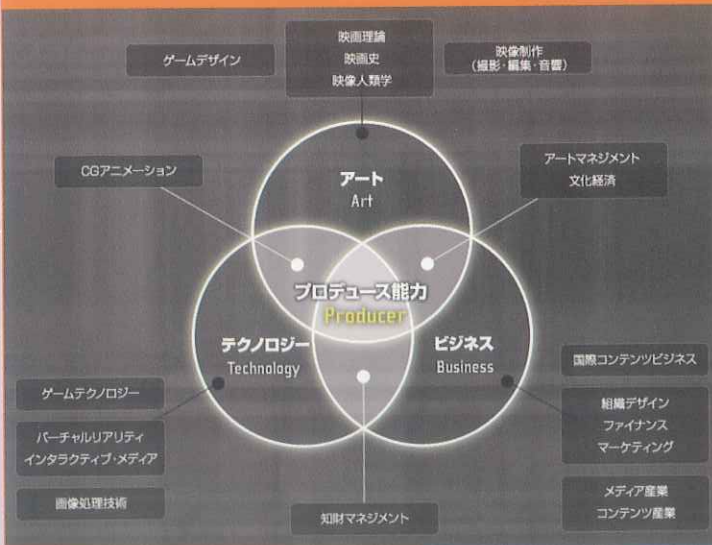
松竹京都映画撮影所

### 豊富な実習・演習科目と実習施設

豊富な演習・実習科目を配置している映像学部では、本格的な実習制作をおこなうための新校舎を建設します。映像編集・音響編集の実習施設やゲーム・CG制作をおこなうためのコンピュータ教室を設置し、任天堂(株)から提供を受けたゲーム開発ツールなどを使用してより実践に近い制作を行うことができます。これらの設備を使うことで映像に対する感性を養うことを目指します。



京都シネマ





京都医療技術短期大学は、創設80周年目の2007年4月より「京都医療科学大学」へと生まれ変わります。短期大学から4年制大学へと改組し、新たに学部（医療科学部）を新設し、技だけでなく、心を磨く医療の担い手を育成します。



■ 医療科学部・放射線技術学科についてご紹介します！

学部・学科の特長

診療放射線技術学科から医療科学部 放射線技術学科へ  
「医療科学技術に関する高度な教育研究により社会に貢献する」を基本理念に、現在の「診療放射線技術学科」をさらに充実させた「医療科学部・放射線技術学科」で、医療理工学や医療情報学などの領域を有機的に組み合わせて学習します。心技ともにハイレベルな高度医療専門職の育成を目指します。

資格取得支援制度

伝統と実績を兼ね備えた国家試験対策

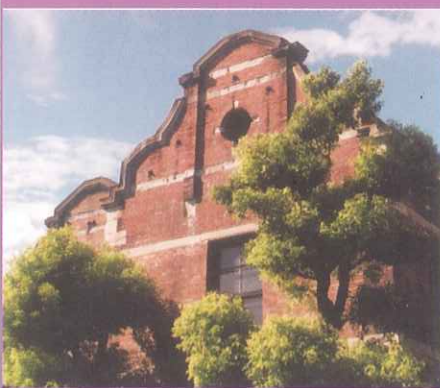
経験豊富な教授陣による国家試験対策を万全に整備しています。現在の京都医療技術短期大学における過去10年間（平成8～17年度）の平均合格率は91.4%で、全国平均76.5%を大きく上回る高い合格率を誇っています。

取得可能な資格 診療放射線技師国家試験受験資格（厚生労働省関係）

医療機関において、医師の指示の下に放射線を発生する機器の操作・管理を行う専門家で、その資格は高度な知識と技術をもっていることを認定する国家試験により与えられます。

実習施設

実習は、京都大学医学部附属病院をはじめとする関西でも屈指の総合病院で実施します。



2007年4月、国際観光文化都市である京都に、初めての「国際観光学部」を新設します。京都御所の西側にある京都キャンパス（京都市上京区）が拠点となります。

主な開設予定科目

- 京都観光研究
- 観光フィールドワーク
- 観光英語
- 観光ボランティア
- 観光中国語
- 国際儀礼概論

定員

90名

■ コースのご紹介

観光プロデュースコース

旅行や観光開発に関連する領域を学ぶ

もてなしの心を育むだけでなく、多くの人を引きつける魅力的な観光資源を開発し、旅行や観光に関連したさまざまなプランを企画立案できる「観光プロデューサー」の育成に力を入れます。京都というロケーションをいかし、実際に「京都をプロデュース」することで、観光プロデューサーとしてのノウハウや知識を養成。卒業後は、旅行業をはじめ、観光ビジネス、観光メディア、イベントプロデュースなどで活躍する道を開きます。



ホスピタリティ・マネジメントコース

ホテル、ブライダル、エアライン産業関連領域にアプローチ

もてなしの心（ホスピタリティ）をもって人々と接し、心と心が通うコミュニケーションをとることができる人材を育成するコース。観光ビジネスや異文化理解など幅広い分野と英語、中国語などの語学を学びます。卒業後はホテル・旅館、旅行、通訳ガイド、エアライン産業関連、外資系企業などで活躍することが可能。観光ホテルで約1ヶ月、副支配人として仕事を体験するユニークなインターンシッププログラムも実施する予定です。



# 京都学術共同研究機構 季刊アカデミア

大学コンソーシアム京都では、「京都学術共同研究機構」を設置し、大学の“知”の活用、“知”の交流の促進を目指しています。今回、京都学術共同研究機構の活動を紹介する「季刊アカデミア」では、「政策系大学・大学院研究交流大会」、そして「京都学・東京プロジェクト」、さらに「京都門前町総合調査プロジェクト」の3つの取り組みをご紹介します。

## 第二回政策系大学・大学院研究交流大会 「京都から発信する都市政策」

2006年12月10日(日)、キャンパスプラザ京都にて、第二回政策系大学・大学院研究交流大会「京都から発信する都市政策」が開催されました。

京都地域にある政策系5大学・大学院(京都橘、佛教、同志社、立命館、龍谷)を中心とした学生・院生・教員約149名が一堂に会し、それぞれの教育や研究の成果を相互に発表しあいました。当日は、パネル発表、口頭発表、事例発表、特別報告、シンポジウムなどが行われた後、表彰式・懇親パーティーへと流れ、盛況のうちに幕を閉じました。



デザイン:大熊 涼介さん  
同志社大学政策学部  
政策学科3年生



口頭発表



パネル発表



表彰式・懇親パーティー

今回は、研究交流大会の実行委員として活躍した2人のVOICEをご紹介します。

## VOICE

学生実行委員長より

いつまでも続け!  
政策系大学・  
大学院研究交流大会!



龍谷大学大学院法学研究科修士2回生 久保 隼さん

京都には政策系の大学・大学院が五つあります。その学生・院生が自大学の枠を超えて発表し、交流し合う第二回政策系大学・大学院研究交流大会「京都から発信する都市政策」が行われました。私はその実行委員として、運営全般を担いました。

昨年の第一回大会に比べ、発表者・聴講者ともに増え、普段とは違う議論に刺激を受け、また同じような研究テーマを学ぶ学生同士が大学の枠を超えて交流し合ういい機会となりました。

この研究交流大会は、運営も学生主体でやっていこうということで五つの大学・大学院の中から学生実行委員が8名集まり、広報活動、資料作成、大会運営体制の企画など当日に向けて様々な準備を行いました。苦勞も多かったですが、振り返れば自分の成長に大いにつながったように感じています。

今回の第二回大会をしっかりと振り返り、この研究交流大会を十回、五十回、百回と続いていくものにしていくのが私の夢です。

## VOICE

学生実行委員より

ひたむきに、  
和気あいあいと。



佛教大学社会学部公共政策学科1回生 佐久間 舞さん

皆さん、こんにちは。私は学生実行委員の一員として、大会当日までの準備を担ってきました。全員が一度に集まるのは難しかったので、2グループくらいに分かれて当日の役割分担等を話し合ったり、発表論文のファイリング作業などを行うなど、取り組んできました。皆、真剣に議論しながら、わきあいあいとした雰囲気で作業が進められたことがとてもよかったです。



学生実行委員のみなさんです!

# 「京都学・東 京プロジェクト」をご紹介します!



## ● 京都の伝統文化の魅力

京都の世界文化遺産「古都京都の文化財」をはじめとする「京都の世界遺産」と、伝統芸能や伝統産業に代表される「京都の伝統文化」の魅力を全国に向けて普及させるとともに、それらの貴重な文化財や伝統文化を保護・継承していくことの重要性を啓発することが目的です。京都市や民間企業の協賛を得て、実施しています。



## ● 今秋、源氏物語講座を実施

秋には、京都の伝統文化講座として『源氏物語』を取り上げ、「におう」「よそおう」「いのる」をテーマに3回の講座を銀座ヤマハホールで開催しました。第1回目は、「におう『源氏物語』にみる「にほひ」の文化」をテーマに藤原克己東京大学大学院教授の基調講演と畑正高松榮堂十二代当主とのトークセッションを開催し、第2回目は、「よそおう『源氏物語』の装束が語るもの」と題して、三田村雅子フェリス女学院大学図書館長の基調講演と寺石勲風俗博物館事務局長とのトークセッションを開催しました。第3回目は、「いのる『源氏物語』の信仰と儀式」をテーマに、日向一雅明治大学教授の基調講演と田中安比呂賀茂別雷神社宮司とのトークセッションを開催しました。いずれの回も定員(500名)に近い受講者があり、「京都」、そして「京都学」に対する関心の高さをあらためて実感しました。

## ● 「東京講座」「フィールドワーク@京都」を通じて

東京での講座と京都でのフィールドワークを基本的な枠組みとして年2回開催しています。2006年度は、6月30日に東京の銀座ヤマハホールで、「延暦寺-壺峰・比叡山に抱かれた1200年の聖地」をテーマに、大久保良峻早稲田大学教授、菅原信海天台宗妙法院門跡門主・勸学大僧正を講師に講座を開催し、500名の受講者を集めました。7月7日には、山田能裕師(延暦寺長騰・瑞応院住職)と巡る現地散策講座「比叡のお堂めぐり」を開催しました。夏の暑い時期でしたが、東京を中心に関東から約80名の方々が参加しました。

## ● 今後の取り組みに向けて

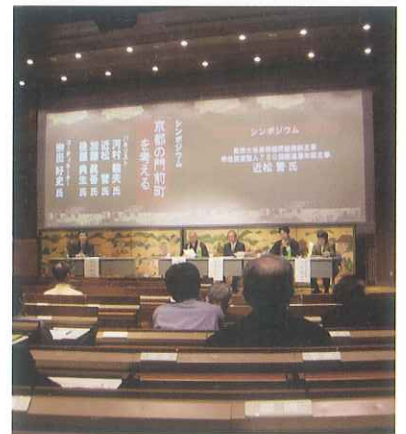
平安京に都が遷都されて以来1200年以上の歴史を持つ京都は、政治・産業・文化・芸術・思想・学問等の中心地であり発信地でもありました。そのため学術研究対象の歴史的な集積地であり、宝庫でもあります。こうした京都の持つ宝を、「大学のまち・京都」ならではの特性を活かして、京都学を全国に発信していくため、今後とも様々な事業を展開していきたいと考えています。

## 京都学術共同研究機構2005年度研究プロジェクト 「京都門前町総合調査プロジェクト」をご紹介します!

プロジェクトリーダー：佐々木 令信氏(大谷大学文学部教授)

このプロジェクトは、2000年から京都市主導による東西両本願寺門前町の景観保護を目指す研究会として始められたものであり、2001年より大学コンソーシアム京都の共同研究「東西両本願寺門前町総合調査」として取り組まれています。共同研究の成果は、『学術コンソーシアム通信特別編』(共同研究プロジェクト中間報告集、2005年)としてまとめられていますが、このプロジェクトは、その研究成果を引き継ぐものであり、他の寺院と門前町との比較調査にもフィールドを拡げていくことを目指しています。

歴史的背景をもつ京都には、現在、門前町といわれる独自の生活空間が存在しています。門前町とは、寺社の門前に広がる商業施設、宿泊施設、さらに職人の仕事場などによって構成される空間をいいます。その門前町に特徴的にみられる景観及び生活様式の背景について、歴史学・経済学・社会学・地理学などをはじめとして多角的な視点から分析することにより、門前町、ひいては京都の地域的な特性を明らかにすることができるという考えから、取り組まれているプロジェクトです。



### PICK UP! シンポジウム「京都の門前町を考える」を開催!

2006年11月26日(日)、大谷大学響流館メディアホールにて、「京都の門前町を考える」を開催しました。このシンポジウムは、頼富本宏種智院大学学長による講演「門前町の持つ「力」-世界の門前町に通底するもの-」のあと、コーディネーターに宗田好史京都府立大学人間環境学部助教授、パネリストに近松誉真宗大谷派宗務所主事、後藤典生高台寺執事・円徳院住職、加藤波吾清水寺寺芸員、河村能夫龍谷大学経済学部教授を迎え、京都の寺社の門前町の景観をめぐる、今にいたる歴史とその景観の保存について、市内の門前町のそれぞれの現状と課題を踏まえながら、あるべき景観の姿と門前町の展望をめぐる議論し、京都が誇るべき門前町の景観について認識を深めました。

# 芸術系大学作品展2006

— ART UNIV. 2006 —

2000年にキャンパスプラザ京都の開館記念としてスタートし、今年で7回目の開催を迎えた「芸術系大学作品展2006—ART UNIV. 2006—」を紹介します。京都の大学には10の芸術系の大学がありますが、今年度は68名の学生による61点の創造力豊かな個性あふれる作品が展示されました。今年度は新たに芸術系大学の学生のキャリア教育を目的に「京都学生アートオークション」を始めます。こちらも是非ご注目下さい!

## ズバリ人気投票!

今回は気に入った作品を来場者にアンケートに書いてもらいました。その中で人気の高かった上位3作品とそれぞれの作家のコメントを、芸術系大学作品展の実行委員長の島先京一先生(成安造形大学)のコメントとともに紹介します。

### 第1位



「ひなたのうろこ」(FRP、アクリルミラー)

東 真一郎さん 京都精華大学立体造形専攻4回生

#### ●東くんからのコメント

展示会の会期中も、作品の表面のミラーをこっそり磨きに行っていました。数日見ない間に指紋がついて、それが目立ってしまうからです。自分の作品がどのように見られているのか遠巻きに観察していると、子供はもちろん、大人も作品に触っていました。いわゆる“芸術好き”と言われる人と作者の間だけで作品を完結させるのではなく、一般の人にも“触れてみたい”と思わせる作品を展示できたことを私は嬉しく思いました。

#### ●島先先生からのコメント

ART UNIV. 2006会場の最初のアクセス・ポイントに、不気味だがユーモラスな輝きを放つ、巨大なワニが現れていました。東君がFRPを素材として作り上げたワニは、伝統的な芸術とはまた異なる、現代美術の楽しさを体全体で表現しています。多くの来客が、最初は驚きながら、しかしやがては微笑みながら、ワニのうろこに目を落としていました。

## 芸術系大学作品展とは?



#### ●開催目的

芸術系大学が多く集まる京都において、芸術系大学間の連携と交流を促進し、切磋琢磨することによりお互いの創作活動の水準を高め、その活動を広く社会に紹介し、「本物の芸術家を育てる大学のまち、学生のまち」としての京都を発信することを目的としています。

#### ●芸術系大学作品展2006開催概要

開催期間：11月7日(火)～11月26日(日)

場 所：キャンパスプラザ京都 1階 情報交流プラザ

主 催：財団法人大学コンソーシアム京都  
芸術系大学作品展実行委員会

後 援：京都市

協 賛：株式会社フラットエージェンシー

来場者人数：2,960人

### 第2位



「happy?」(ミクスト・メディア)

小谷 梨恵さん 京都嵯峨芸術大学大学院芸術造形専攻1回生

#### ●小谷さんからのコメント

この作品を制作するにあたって、「自分の作りたいもの」「自分は何がしたいのか」がわからなくなり、作品を作っている、「作ること」が、苦痛になっていました。そんなときに後輩たちの作品展を見て、他の人から見れば、まだまだ未熟な作品だけれど、彼らが自分の作品に熱意を持って、わくわくしながら制作しているのを見て、私も自分が楽しんで作品を作りたいと思い、この作品が生まれました。今後も自分が楽しんで制作できる作品を作っていきたいです。

#### ●島先先生からのコメント

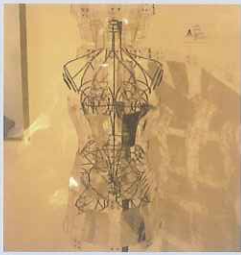
小谷さんの作品は、異なる素材間の皮膚感覚の違いを巧妙に活かしながら、伸びやかな造形を展開しています。そこには、見るものが自由な感覚からそれぞれに作り上げることが出来る、多義的な物語が垣間見えます。素材との身体的なふれあいの中から生まれてきた、若々しいファンタジーが実現されています。



他にもいろいろな  
作品が出展されました



「秋望」  
中嶋 真美子さん  
京都教育大学教育書道専攻4回生



「prism」  
[プリズムシート、塩ビ板、ハトメ]  
藤崎 陽平さん  
京都造形芸術大学ファッションデザインコース3回生



「☉」  
[インクジェット、シルクスクリーン、綿布、ボタン]  
檀野 千尋さん  
大阪成蹊大学芸術学部テキスタイル表現専攻3回生



「素直に生きる」  
[木彫、イチョウ(顔部)、クヌギ(体)]  
山本 哲也さん  
成安造形大学造形美術学科3回生



「彩~sai~」 [コンパネ板、切り花、乾燥植物]  
華道部9名 池坊短期大学文化芸術学科1・2回生



「マ・ミスキャスト マ・ミスキャスト」  
[ワトソン瓶にアクリル絵具、パネル]  
林 真美さん  
京都嵯峨芸術大学短期大学部デザイン専攻1回生



「蘭」 [陶、アクリル]  
花塚 愛さん  
京都市立芸術大学大学院工芸専攻2回生

全国初!

学生の夢、応援して下さい!

# 京都学生 アートオークション 来春開催!



芸術系大学作品展の関連企画として今年から、京都学生アートオークションを開催します。これは、これまで芸術系の大学が、特にファイン・アートを専攻する学生たちの芸術家、作家という進路の可能性について、あまり深く指導してこなかったのではないかと問題提起から生まれた、キャリア教育企画です。出品者は、アーティストとして生きていくことの心構え、アートが社会に進出していくシステム、アート・マーケットの実際、アート・マーケットに参画するための具体的な戦略等について学んだ後、2つの会場に自らの作品を展示し、展示会の最終日に専門のオークショナーの指導に従って、作品をオークションにかけます。野心的な試みである本企画が、アートを学ぶ学生諸君の未来に何を投げかけてくれるのか、楽しみです。

(成安造形大学 島先京一 京都学生アートオークション・ワーキング・グループ委員)

## 第3位



「STAGE BENCH」 (メルクシュバイン木材、アクリル材)  
内之倉 慎治さん 京都工芸繊維大学造形工学科3回生

### ●内之倉くんからのコメント

パズルのようなベンチ。“友愛”をテーマに製作しました。人々が集まり、会話が生まれるようなベンチになればと思い、今回このような作品を提案してみました。3つのパーツが合体するときがいい感じですが、ひとりでは操作できません。友達と協力して形をつくっていくところが、このベンチの特徴でもあります。実際に座って触ると木のぬくもりも感じることができます。これもいい感じですね。

### ●島先 先生からのコメント

ART UNIV. には、アート作品とともに、明日からでも具体的な空間において用いることも出来そうな、デザイン造形も出品されています。内之倉君のデザイン提案は、使い手が積極的に形態の決定にかかわることの出来る、遊び心をくすぐるベンチです。幾何学的な造形でありながら、温かみも感じさせてくれます。

### 京都学生アートオークション 開催概要

会場 京都造形芸術大学 ギャラリー・オーブ  
京都嵯峨芸術大学 アートスペース嵯峨

### [プレビュー]

- 2007年2月10日(土)~18日(日)  
京都造形芸術大学
- 2007年2月13日(火)~18日(日)  
京都嵯峨芸術大学

### [オークション]

- 2007年2月18日(日) 11時~受付  
12時~14時 京都嵯峨芸術大学
- 2007年2月18日(日) 16時~受付  
17時~19時 京都造形芸術大学

詳しくは財団の京都学生アートオークションのページをチェックして下さい!

Check! <http://www.consorium.or.jp/student/artauktion/>

## 大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラムのご紹介

### 産官学が連携して未来の人材を 育成します！

インターンシップ事業推進室長に  
伺いました。



**七條 清人** (しちじょう きよと)

京都外国語大学事務職員。2005年4月から財団法人大学コンソーシアム京都に出向。現在、教育事業部において、主にインターンシップ事業を担当。

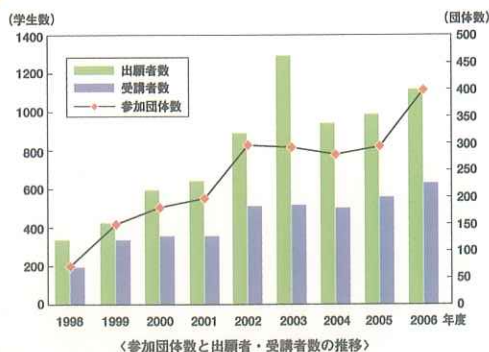
#### Q 大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ事業にはどんな狙いがありますか？

**A** 財団法人大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い就業意識の育成、自主性・独創性のある人材育成を目的とした「教育プログラム」として実施しています。



#### Q これまでの実績を教えてください。

**A** 財団法人大学コンソーシアム京都では1997年に研究会を立ち上げ、1998年から全国に先駆けてプログラムを開始しました。京都地域すべての大学・短期大学が参加する大学連合のメリットを活かしてこれまで約3,600名を超える学生と延べ2,000を超える企業・団体・機関などが参加し、双方にとって高い効果を上げてきました。また、インターンシップ生を対象にしたアンケートでも毎年9割以上の受講生が満足と回答しています。



#### Q 具体的な特徴を教えてください。

**A** 主に3つの特徴があります。

##### ① 京都地域49の大学・短期大学全てが参加！

京都地域の49の大学・短期大学から、文系・理工系・芸術系など、1回生から大学院生までの多様な個性ある学生がチャレンジしています。多様なメンバーで構成される事前・事後学習のゼミでは、学生は大きな刺激を受けることができます。

##### ② 充実した事前・事後学習プログラムがあります！

これまでの経験を活かし、事前・事後学習では業種・業界ごとに20名程度のクラスを編成し、そこに京都の様々な大学の教員がコーディネーターとして学生をサポートします。ディスカッションを通じて実習の目的を明確にし、実習をより充実したものにします。

##### ③ 万全のリスク対策があります！

たとえば、実習中の思わぬ事故や、機密漏洩、社員とのトラブルなどインターンシップ実施において想定されるリスクを軽減するため、リスクマネジメント講習、協定書の締結など、様々な取り組みを行っています。また、財団法人大学コンソーシアム京都にリスク管理対策室を設置し、丁寧な相談に応じています。

#### Q どんなコースがありますか？

**A** 全部で4コースあります。

##### 1 ビジネスコース

一般企業などで8月～9月に2週間以上のインターンシップ実習を行うプログラムです。最も学生の参加が多く、規模も大きいのが特徴です。

##### 2 パブリックコース

行政機関・非営利組織などで、8月～9月に2週間以上のインターンシップ実習を行うプログラムです。

##### 3 プロGRESSコース

実施先のテーマ・課題に対して約6ヶ月のプロジェクト型のインターンシップを行うプログラムです。受入れ先が提示したテーマに沿って成果重視・プロジェクト型で実習を行うことができます。実施期間が6月～12月と長期になることで、学生は専門性や独創性がより求められるようになり、実習を通して大きく成長することができます。

新設

##### 4 トライアルコース

短期大学(専攻科を含む)1・2年次生および4年制大学の1年次生を対象に12月中旬～2月下旬にかけて5日間以上の実習を行うプログラムです。トライアルコースは2006年度から新設されたもので、プログラムを経験することによってキャリアへの「気づき」を得て、今後のステップアップへつながるようになっていきます。初年度は、11月18日、19日に受入れ団体とのマッチング会が開催され、様々な大学・短期大学から60名の学生が参加しました。



#### Q 最後に学生へのメッセージをお願いします。

**A** 2007年度でインターンシップ事業は10年目を迎えます。今後も各大学・短期大学と協力して一人でも多くの学生にこのインターンシップ制度を知っていただき、質・量ともに充実したプログラムを目指していきます。また、2006年度からトライアルコースを開講し、1回生も参加しやすくなっていますので、ぜひチャレンジしてほしいと思います。

「京都府エイズ等性感染症公開講座」を共催しました！

2006年11月12日(日)、12月17日(日)の両日、キャンパスプラザ京都において、「京都府エイズ等性感染症公開講座」を京都府主催のもと共催しました。先進国で唯一我が国はエイズ感染者の数が増えており、その感染の7割近くが20代・30代の若年層が中心で、この若年層への対応が大きな課題であることから、府民講座として実施したものです。11月12日(日)には97名、12月17日(日)には73名の参加がありました。



第1回(11月12日)

講義(1)	「性感染症とエイズ」 保田 仁介氏 (松下記念病院・産婦人科)
講義(2)	「グローバルな視点からみたエイズの拡がり」 木原 正博氏 (京都大学・社会学)
グループワーク(1)	鬼塚 哲郎氏 (京都産業大学) 山田 創平氏 (財団法人エイズ予防財団)

第2回(12月17日)

講義(3)	「現代文明とエイズの出現」 今西 二郎氏 (京都府立医科大学・微生物学)
講義(4)	「若者を救え！」 大野 聖子氏 (京都第一赤十字病院・HIV/AIDS臨床)
グループワーク(2)	鬼塚 哲郎氏 (京都産業大学) 山田 創平氏 (財団法人エイズ予防財団)

第3回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムが開催されました！

2006年12月9日(土)10日(日)、中央大学多摩キャンパスにおいて、全国の大学連携組織・コンソーシアム相互の連合体である「全国大学コンソーシアム協議会」が主催する「第3回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」を開催しました。今回のテーマは、「大学の構造改革と産・官・学・地域連携の役割」。清成 忠男氏(前法政大学総長)による講演、北川 正恭氏(早稲田大学教授、元三重県知事)らによるパネルディスカッション、5テーマ(「大学間連携」「産官学地域連携」「小中高大連携」「大学連携における広報発信の役割」「コンソーシアムの組織運営」)の分科会等を通して、充実した研究・経験交流が行われました。



第4回高大連携教育フォーラムが開催されました！

2006年12月15日(金)、大学コンソーシアム京都が加盟する京都高大連携研究協議会主催による「第4回高大連携教育フォーラム」が、キャンパスプラザ京都で開催されました。第1部の基調報告では学力構造の変化と高大連携の可能性—新局面を迎えた高大連携Ⅱ—というテーマで、荒井克弘氏(東北大学副学長)、荒瀬克己氏(京都市立堀川高等学校校長)、中村博幸氏(京都文教大学人間学部教授)、木村雅則氏(京都府立西宇治高等学校教諭)をお迎えし、椛本洋氏(立命館大学高大連携推進室教授)のコーディネートののもと、初等中等教育の現状と高等教育の現状を共有するべく、学力構造の変化と今後の初等中等教育の方向性、大学AO入試の動向などが京都高大連携研究協議会での実践研究の紹介を交えて報告がなされました。また、第2部の分科会では、各方面の実践・研究報告がなされ、全国各地から参加された約190名の高校や大学関係者などにより活発な研究交流が行われました。



京都館にて、大学コンソーシアム京都の情報が発信されています！

東京でほんものの京都が体験できる京都情報の総合拠点「京都館」が東京駅八重洲中央正面のヤンマー東京ビル1階に移転し、大学コンソーシアム京都の関連のパンフレット等も配布されています。ぜひ一度、お立ち寄りください。



Check it out!



単位互換授業に刺激を受けて

砂田 陽香さん 同志社女子大学学芸学部情報メディア学科3回生  
「きもの学(基礎)」(社)全日本きもの振興会寄付講座  
(コーディネーター:京都学園大学経済学部教授 大西辰彦先生)  
「京都で伝統を学びたい」そう考えていた時に出会ったのが「きもの学」。着物を七五三、成人式と節目となる時に着ましたが、日本の民族衣装である着物について何も知らないことに気づき、受講を決めました。授業は、染め、織り、生地、歴史など様々な角度からなされ、講師も着物に携わる方や職人さんなどバラエティに富んでおり、楽しいものでした。私がこの授業を通して一番感銘を受けたことは、きものを着ることで、季節や月を相手に伝える事ができる点です。言葉に出さず相手に情報を伝えることが着物にはできます。この授業を通し、日本の奥ゆかしさを再認識しました。着物を着て今度は自分が伝統を伝えられるようになりたいです。

# 第12回FDフォーラムを開催します。「学生が伸びる大学教育」



## ■日時・場所

1日目：2007年3月3日(土) 13:00～17:00  
京都産業大学 神山ホール  
2日目：2007年3月4日(日) 9:30～15:30  
キャンパスプラザ京都

■主催：財団法人大学コンソーシアム京都

■基調講演 テーマ「大学生の発信力が伸びる」

【講師】樋口 裕一氏(作家・京都産業大学 客員教授)

【開催概要】これまでの日本では受信能力ばかりが重視され、教育のほとんどが受信に関するものでした。これからの社会の、とりわけ大学において重視されるのは発信力です。ところが、そのためのカリキュラムやノウハウが開発されていないのが現状です。大学生が自ら発信力を伸ばすにはどうすればいいのか、大学教員は何をなすべきか、どのような入試、指導、サポートが必要かを、長い間大学を外から見てきたお立場から、講演いただきます。

■シンポジウム テーマ「学生が伸びる大学教育」

【シンポジスト】

中津井 泉氏(リクルート・カレッジマネジメント編集長)

中尾 ハジメ氏(京都精華大学理事長)

橋本 勝氏(岡山大学教育開発センター教授)

【コーディネーター】

木野 茂氏(立命館大学大学教育開発・支援センター教授)

【開催概要】日本の高等教育情勢が急激に変化している中、各大学は、特色ある教育や研究を行うだけでなく、ステークホルダーの多様なニーズに応えるために、様々な改革を行っています。その中で、FD活動は大学教育の充実・発展を図る上で不可欠であることは言うまでもありませんが、これからのFD活動は単に設置基準の義務化への対応にとどまらず、「学生」の視点にたつて、真に学生が伸びる教育を目指さねばなりません。そこで、今年度のシンポジウムでは、特色ある取り組みを実践、あるいは、よくご存じである立場のシンポジストから「学生が伸びる」大学教育とはどのようなものか、「学生が伸びる」大学教育には何が必要なのか等に関して報告を頂き、意見交換を行うことを目的とします。

## 申込み方法

下記のURLに申し込みフォームを設置してありますので、ご入力ください。お申し込みいただいた方には、事務局より参加証をお送りいたします。申込期日は、2007年2月10日(土)です。

URL : <http://www.consortium.or.jp/consortium/fd/fdindex.html>

※フォーラムへの当日参加は混み具合によって受付をお断りすることもあります。参加費は、当日会場にて徴収させていただきます。

## ◎参加費

参加費区分	情報交換会含む	情報交換会除く
(財)大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学教職員	5,000円	3,000円
(財)大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学学生	1,000円	無料
(財)大学コンソーシアム京都非加盟大学・短期大学教職員、一般	7,000円	5,000円
(財)大学コンソーシアム京都非加盟大学・短期大学学生	2,000円	1,000円

## ■分科会プログラム

### ◎第1ミニ・シンポジウム

「FDの組織的推進」  
—SDとの接続を求めて—

【シンポジスト】原 清治氏(佛敎大学教育学部教授)／後藤 篤子氏(法政大学FD推進センター長)／今田 晶子氏(立教大学大学教育開発・支援センター課長)／肥塚 浩氏(学校法人立命館副総長・立命館大学副学長)

【コーディネーター】圓月勝博氏(同志社大学教育開発センター所長)／浅野 裕彦氏(大谷大学文学部助教授)

### ◎第2ミニ・シンポジウム

「授業アンケートは  
授業改善につながるのか？」  
—学生と教員の声—

【シンポジスト】濱名 篤氏(関西国際大学学長)／米谷 淳氏(神戸大学大学教育推進機構教授)／中村 博幸氏(京都文教大学人間学部教授)

【情報提供者／協力者】  
京都教育大学・佛敎大学 学生有志

【コーディネーター】藤岡 秀樹氏(京都教育大学教育学部教授)／松本 真治氏(佛敎大学教授法開発室室長)

### ◎第1分科会

「大学における  
キャリア教育の方向性」  
—その理論と実践を踏まえて—

【報告者】池本 正純氏(専修大学経営学部教授・キャリアデザインセンター長・日本私立大学連盟就職委員会副委員長)／清水 和秋氏(関西大学社会学部教授・日本キャリア教育学会会長)／宮本 紀男氏(金沢工業大学工学部教授・工学基礎教育センター所長)

【コーディネーター】桐野 由美子氏(京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学科学部教授)／谷口 隆之氏(京都薬科大学薬学部教授)

### ◎第2分科会

「大学における国際化への対応」  
—国際感覚をもった学生の育成—

【報告者】大森不二雄氏(熊本大学大学教育機能開発総合研究センター教授)／勝又 美智雄氏(国際教養大学図書・情報センター長)／鈴木 健司氏(同志社女子大学国際交流センター所長)

【コーディネーター】三浦 潔氏(京都文教大学人間学部教授)／高橋 伸一氏(京都精華大学人文学部助教授・教務部長)

### ◎第3分科会

「大学院のFDって何？」  
—大学院設置基準のFD義務化を受けて—

【報告者】石井 康之氏(東京理科大学専門職大学院総合科学技術経営研究科教授)／田中 敏宏氏(大阪大学大学院工学研究科教授)／館 昭氏(桜美林大学大学院国際学研究科教授)／鈴木 美香氏(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻専門職学位課程1年)／北村 恭子氏(京都大学大学院工学研究科修士課程1年)／遠藤 貴広氏(京都大学大学院教育学研究科修士後期課程3年)

【コーディネーター】大塚 雄作氏(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

### ◎第4分科会

「短期大学の独自性とは？」

【報告者】足立 寛氏(立教大学大学教育開発・支援センター調査役)／柳田 博明氏(京都外国語短期大学英語科長)／渡辺 康洋氏(富山大学高岡短期大学部教授)／矢原 充敏氏(東海大学福岡短期大学助教授)

【コーディネーター】菅野 瑞治也氏(京都外国語短期大学教授)／國安 俊彦氏(京都外国語短期大学講師)

### ◎第5分科会

「学力低下に関する問題と  
どう取り組むのか」

【報告者】河村 能夫氏(龍谷大学経済学部教授)／山田 健治氏(福山女学大学現代マネジメント学部教授)／吉原 恵子氏(兵庫大学健康科学部教授)

【コーディネーター】岡地 勝二氏(龍谷大学大学教育開発センター長)

### ◎第6分科会

「大学連携型教育プログラム  
におけるFDの意義と役割」

—双方向性を向上させる  
授業評価とOCWに向けて—

【報告者】椋本 洋氏(立命館大学高連携室教授)／松本 由利氏(京都高等教育研究センター研究員)／浅野 昭人氏(立命館大学大学教育開発・支援センター課長)／宮崎 耕氏(同志社大学経済学部教授)

【コメントーター】村上 正行氏(京都外国語大学・同短期大学専任講師)／寺川 真知夫氏(同志社女子大学教育開発推進センター所長)

【コーディネーター】山内 信幸氏(同志社大学文化情報学部教授)

## プラザカレッジ都市政策特別講座「三都比較の中の地方自治～京都・大阪・神戸～」を開催します！

「三都比較の中の地方自治～京都・大阪・神戸～」は、都市政策に関するシンクタンク機能を担う5つの政策系学部・研究科が協同で企画したものであり、京都、大阪、神戸という3つの政令指定都市をまちづくり、文化、観光等の切り口で比較分析し、新たな都市像を模索していくというものです。



■日時：●第1回 1月21日(日) ●第2回 1月28日(日)  
●第3回 2月 4日(日) ●第4回 2月11日(日)  
●第5回 2月18日(日) ※いずれも14:00～15:30

■会場：キャンパスプラザ京都 4F 第2講義室

■主催：財団法人大学コンソーシアム京都

■共催：財団法人京都市職員厚生会

■企画協力：京都橘大学、同志社大学、佛敎大学、立命館大学、龍谷大学

■募集定員：250名

■申込み方法 参加希望の方は、プラザカレッジ係までお問合せ下さい。(075)353-9100 plaza@consortium.or.jp

■講師：第1回 石原 一彦氏(立命館大学政策科学部教授)  
第2回 今川 晃氏(同志社大学政策学部教授)  
第3回 西垣 泰幸氏(龍谷大学経済学部教授)  
第4回 井口 貢氏(京都橘大学文化政策学部教授)  
浅井 俊子氏((株)情報工房 代表取締役)  
田中 三文氏  
(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員)  
第5回 内藤 正明氏(佛敎大学社会学部教授)

■受講料：(無料)

## COVER PHOTO



今回のcover photoである華頂短期大学図書館は、地下1階、地上3階建て。その3階フロアでの授業を撮影させていただきました。船底天井は図書館を寺院のお堂に見立てつつ、モダンな雰囲気でも表現したものです。キャンパスが知恩院の境内にあることから、図書館も塔頭群の一つと位置づけた設計になっています。図書館は竹の植栽と水が流れるサンクンガーデンに囲まれ、小さな橋を渡って入館します。閲覧室、AVコーナー、和室などが設置されており、学びの拠点としてはもちろん、交流の場としても活用されています。